

AITOZ の Sbook

アイトスのSブック

ニューノーマル時代の
ビジネス戦略。
YOU TUBE による動画提案で
提案力の強化を実現。

 YouTube
商品説明動画
公開中!! ⇒



SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

「SDGsを活用した
エコ素材プラスワンの提案」

 YouTube



A I T O Z の S b o o k c o n t e n t s

0 1 - 0 2	c o n t e n t s
0 3 - 0 4	ごあいさつ
0 5 - 0 6	S D G S ってなに？ / S D G s , 日本 の 取 り 組 み
0 7 - 0 8	アイトスの S D G s 達成に向けた取 り 組 み（自分たちでできる事からはじめます）
0 9 - 1 0	アイトスを数値で見る
1 1 - 1 2	環境改善につなげるため実行してきた内容
1 3 - 1 4	アイトスの温室効果ガス排出結果
1 5 - 1 6	今できる最善の配慮 / アイトスの環境配慮対応と将来の物づくり
1 7 - 1 8	アイトスの環境配慮素材
1 9 - 2 0	サステナブルセレクション / 新しい取 り 組 み
2 1 - 2 2	S D G s 活用一覧



ごあいさつ



SDGs って何？



SDGs 達成に向けた取り組み



アイトスを数値で見る



環境改善につなげるため実行してきた内容



温室効果ガス排出結果



今できることと将来の物づくり



サステナブルセレクションと新しい取り組み



SDGs 活用一覧

ごあいさつ

弊社にとって SDGs とは？

アイトスのモットー「これからもこれでやっていけるか？」

1 世紀を超える弊社の歩みを振り返る時、新しく始める事業から新商品に至るまで、プレゼン後、当時のリーダーがまっさきに発した質問が「ほんまにこれでやっていけるんやな？」であったことを思い出します。

これとは、このやり方、このコンセプト、この素材、この体制、この計画などを指しているのですが、その問いかけは、言い換えれば「持続可能性」を判断基準にせよの意味だったと思っています。そんな弊社にとって、地球の持続可能性に具体的な対処を求める SDGs 概念は、ごくすんなりと入ってきました。アイトスが、ややもすると SDGs に前のめりなのは、そんな歴史と社風の賜物であり、実際にそのようなフィルターを経て作られる商品も多くなってきました。経産省「次世代を担う繊維産業企業 100 選」の末席に名を連ねるようになったのも、そのような背景があるためかも知れません。弊社の主力商品は、むろんユニフォームですが、たかがユニフォーム、されどユニフォーム。日々真剣に向き合い果てることがない中で、気が付いたことがあります。それは、ユニフォームを選ぶモノサシが、従来は「必要な機能性とトレンドィな見かけ」だったものが、それ以上に「持続可能性指標として SDGs コンセプト」の有無に移っているように見えることです。「このままで良いのか？」と前向きにお考えの皆様方に、ぜひともこの小冊子に目を通していただきたいと思います。

アイトス株式会社 代表取締役社長
伊藤 崇行

2015

年9月に国連で開催されたいわゆる

サステナブルサミットで、全加盟国193カ

国によって採択され、2030年をゴールに15年間で

世界が達成すべきゴールが示されました。17の大目標とそれ

を具体的に示した169のターゲットで構成されています。

今まで国連が掲げてきた各種の提案と決定的に違うことは、国や官公庁、

企業が、その本業を通じて目標達成することを謳っていることで、これは事業そのもの、商品やサービスそのものを SDGs 的に最適化するよう促している

点です。今まで企業が行ってきた社会貢献活動（文化活動やメセナ、環境保護活動など）は、企業が本業で設けた利益の一部を還元する物でしたから、その点が今までと大きく異なります。何をするにも人の働きは欠かせず、人が働くた

めにはユニフォーム（仕事服）が不可分です。ユニフォームの機能や耐久性が

優れていることはもちろん、快適性や安全性、ひいては仕事へのプライドや

所属組織への愛着と言った心理的な面、さらには生産や流通、廃棄に至

る商品のカーボンフットプリントまでも考えてできるだけ、SDGs に

沿うものでありたいと考えています。

*Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標） *「“Sustainable “＝サステナブル」は「持続可能な」という意味 *商品 LCA＝商品 ライフサイクルのすべて

SDGsってなに？



SDGs ,
日本の取り組み



日本の SDGs 推進本部：

政府内に設置、本部長：総理大臣 副本部長：外務大臣委員：各国務大臣

アクションプラン：

8つの優先課題に対し具体的施策（アクションプラン）を明示

ユニフォームのアクションプラン：

感染症対策、健康、ジェンダー、平等、防災など

SDGs アクションプラン 2023

People 人間：多様性ある包摂社会の実現とウィズ・コロナの下での取り組み

- あらゆる分野での女性の活躍を推進
- 子供の貧困対策や教育推進など人への投資
- 外国人との共生社会実現に向けた環境整備
- 公衆衛生危機への予防・備え・対応強化

Prosperity 繁栄：成長と分配の好循環

- デジタル田園都市国家構想の実現で地方都市活性化
- 日本企業と海外スタートアップのオープンイノベーション実現
- 地方公共団体連携による脱炭素化やデジタル化支援で地方の SDGs 加速
- 熊本水イニシアティブに基づく質の高いインフラ整備の取り組み

Planet 地球：地球の未来への貢献

- GX 推進のためのロードマップ検討加速化
- 脱炭素先行地域を少なくとも 100 か所創出
- 食品ロス量を 2030 年までに 489 万トンまで削減

Peace 平和：普遍的価値の遵守

- アフリカの SDGs 取り組みモニタリングやフォローアップ
- 子どもにたいする暴力撤廃支援とグローバルな取り組み参画
- 国際取引円滑化や外国人を含むすべての人の司法アクセス確保

Partnership: 絆の力を伸び起こす

- 国内外のあらゆる関係者との連携を促進強化
- ODA 開発協力大綱の改定
- 国連ハイレベル政治フォーラムや日本ーメコン SDGs フォーラム等への貢献

過去の SDGs アクションプラン

SDGs アクションプラン 2022 「全ての人が生きがいを感じられる新しい社会へ」

SDGs アクションプラン 2021 「コロナ禍からの「よりよい復興」と新たな時代への社会変革」

SDGs アクションプラン 2020 「2030 年の目標達成に向けた「行動の 10 年」の始まり」

SDGs アクションプラン 2019 「2019 年に日本の「SDGs モデル」の発信を目指して」

SDGs アクションプラン 2018 「2019 年に日本の「SDGs モデル」の発信を目指して」

アイトスの SDGs 達成に向けた 取り組み (自分たちでできる事からはじめます)



ヒヤリハット事例に学ぶユニフォームづくり

事業場で発生したヒヤリハット事例を検証し、ユニフォームの安全対策にフィードバック

例：物流部門 荷崩れやフォークリフト事故事例で得られた知見のルール化周知化とユニフォームディテールへの反映。



実習服授業

実習服が必須の実業系学校の生徒対象に、正しい着装知識やルールを講習し、併せて、ユニフォームの効用や、見かけとマナーなど衣生活の基本も伝えています。

社内リーダー育成

ユニフォームづくりは文化づくりの信念のもと、縫製や裁断設備の操作から繊維ごとの違い、正しい洗濯や乾燥の仕方など、服を総合的に理解するプログラムを実践することで、技術の継承とリーダー育成を行っています。



全員参加の社員大会

年に一回、社員が全員参加する社員大会を開催し、アイトスの動きや業界概況を知り自部門の在り方を構想するきっかけづくりとしています。

業績反映型人事考課

社員自らが働きがいを感じられるよう、業績反映型人事考課制度はじめ様々な評価制度を設け、社員大会等の機会を通じ、顕彰しています。



男女で差が出ないよう社内制度を見直し

女性活躍リーディングカンパニー（大阪市）に認定されています。

女性目線の商品開発や社内ルールづくりを行う

そのための仕組みとして、アイトス ウーマン プロジェクト（AWP）を設置しています。

女性ワーカー向け商材充実

ユニフォーム業界は、介護やサービス業界など一部を除くと男性向け商品が多いのですが、それではニーズに対応できないと考え、女性の体形や意識を強くもった商品を別途、ラインアップしています。

ジェンダーレスデザイン

女性向け商品拡充の一方で、男女が共通で着られるデザインや仕様の商品も豊富にご用意しています。



生産ロスやゴミ削減を強く意識

適品適時適数の最適地生産をめざし、受発注システムの最適化を図っています。商品の完全循環型リサイクル対応商品のボリュームアップに努めています。

低負荷をキーワードに

商品のエコ素材化はもちろん、梱包材料のエコ化と重量軽減やサイズダウン、カタログ軽量化などで人への負担を減らすことをめざしています。



CO₂ 削減

弊社は地球温暖化ガス排出量の範囲を測定する Scope 基準に則り、2023年は Scope 1、2、2024年以降は Scope 3 基準で測定値を算出し、また、商品 1 点当たりのCO₂も数値化することで、カーボンニュートラルに向けた数値目標を明確にしていきます。



紙やプラスチックの削減

商品と物流で発生する紙やプラスチックを削減するため、電子文書化、電子保管推進および、段ボールの再利用などを行っています。

特に物流時に発生するダンボールのリサイクルを検討し、ゴミ 0 をめざしていきます。



パートナーシップとは、信用と信頼を基盤とする盟友関係だと考えています。

アイトスの信用と信頼づくり

リサーチ&デベロップメント機能の充実

まだ顕在化していないものも含めユニフォームのプロとしてのニーズ把握と、それを実現する技術と仕様（スペック）の開発。

適時適品最適地生産の実現

メーカーアイトスの最重点は、お客様が必要な時に、必要な機能と性能を、納得いただける価格でお届けすることだと考え、その仕組みを常にアップデートしていくことだと考えています。

情報収集・情報発信の場へ積極参加

さまざまな産業展示会に積極的に出展し、その産業のトレンドやニーズを把握するとともに、その産業向けに開発した商品をお披露目し、商談きっかけにつながるようにしています。

モノづくり方針は王道重視

業務専門化が進む現在、業務必需品である仕事着もニーズに沿う規格や仕様が求められ、その結果、多品種少量化が進み、コスト高を招きがちです。

弊社は、仕事服のトップランナーの一員として、ニーズの詳細な分析や生地の共用化などでより多くの職種に適応し、コストを抑えたモノづくりを進めています。

このページは、アイトスをより深くご理解いただくための数値をまとめてみました。企業評価の一般的なものさしでは、出荷点数や売上げ、利益額などで良いのですが、今後は SDGs 的な見地からの数値も開示し、皆さまのご判断を仰ぎたいと考えています。

商品出荷点数
12,000,000 枚

お客様から 1 年間に発注いただいた商品点数で、カタログ掲載商品、別注企画商品、店頭販売商品の合計です。上下 2 枚でワンセットと考えると、600 万人のワーカーに着ていただいた計算になり、数字上は、建設業と運輸倉庫業のユニフォーム着用者数に匹敵します。

品番数
4,500 品番

カタログ備蓄品番数、別注品番数、リテイル部門品番数の合計です。

回収した
廃棄ユニフォーム数
360,000 枚

着ることができなくなったユニフォームは産業廃棄物扱いです。2022 年度は約 36 万枚を回収しましたが、商品の性格上、リユース（中古衣料として再使用）ではなく、繊維 to 繊維、もしくは発電燃料として再利用されています。（2023 年度は約 40 万枚となる見込み）

裁断くず重量
121,500 kg

裁断片は平均して原反のおよそ 15% で、今までは大半が廃棄されていましたが、現在はマット類、クッション材、詰め物などに再利用されています。なお、ラオス工場で出た裁断片は反毛され糸になって T シャツとなり、アイトス展示会で社員のユニフォームになりました。

段ボール再使用量
70,000 個
400,000 個

1 年間でお客様向けに出荷される段ボールは約 40 万個ありますが、そのうち 7 万枚（18%）は海外縫製工場から日本にやってくる段ボールのうち、検査の結果、再利用可能と判断したリユース品で、紙ゴミ削減と資源の有効活用を図っています。

CO₂ 排出量
675.29 トン

アイトスが購入した素材や副資材、梱包材などの生産段階、裁断や縫製段階、物流段階、営業活動などで発生する CO₂ の総計です。（Scope1、2 での排出量）努力の結果年々減少しています。

自家発電量
2,635,298 kw
1,572,668 kw

アイトスが運営する太陽光発電所（徳島県美馬、長野県野辺山）、風力発電所（北海道函館市）のメガソーラー発電量は、数値上、国内各事業場で使う全電力量をカバーし、余剰分は発電所が立地する地元の電力会社を通じて、地域に供給されています。

コピー紙使用量
2,906,250 枚

Fax やコピー機で使われるコピー用紙の量を減らすため、電子受発注を促進すると共に、社内では原則として裏紙使用が当たり前になっています。

お取引先数
3,940 社

仕入先様、販売先様を始め、取引先様は 4 千社近くになります。日本企業の平均寿命は 2020 年時点で 37.5 歳らしいのですが、ユニフォーム業界は長寿企業が多く、仕入れや販売などの取引歴が長い口座が多いようです。

社歴
106 年目

おかげさまで、1917 年の創業から一世紀を超えました。これも皆様方のご協力とご鞭撻の賜物と感謝しています。なお、日本には 386 万の企業（法人 188 万社 個人事業主 198 万社）があり、そのうち 100 年以上存続している企業は約 3 万 3 千社、弊社もそのうちの 1 社です。

従業員数（国内・海外・グループ含め）
1,700 名

海外自社工場やグループ会社を含め総勢 1,700 名が、皆さまのお役にたてるよう、アイトス各社各事業場で働いています。海外要員も含むため、実態とは少し異なりますが、日本の衣服製造業従業者約 60 万人の 0.3% に相当します。

売上高
217 億円

アイトスの 2023 年度総売上高は、ワークユニフォームに限れば 191 億円になります。日本のユニフォーム市場はメーカー出荷額で 5,500 億円ですが、これには特殊作業服や学生服、体育衣料も含まれています。アイトスが扱うワークユニフォーム商品（ワーキング、オフィス、サービス、介護・メディカル、食品、シューズなど）に限れば市場規模は約 4,200 億円と推計されるので、シェアは約 4.5% です。

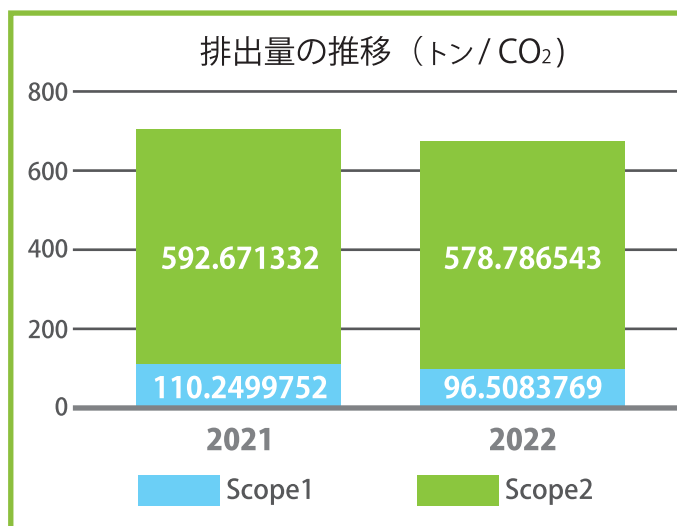
次代を担う
繊維産業企業 100 選
1/100 社

日本のアパレル企業は大小合わせて約 6 万 6 千社あり、その中から、サステナブルやデジタル化、技術やデザインで高付加価値創出など、新しいチャレンジをしている観点から経産省が選定する「次代を担う繊維産業企業 100 選」の 1 社に選ばれました。

会社として行ったこと	
7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに 9 産業と技術革新の 基盤をつくろう 13 気候変動に 適応する	火力由来の電気使用を減らすため、アイトスは徳島県美馬市と長野県南佐久郡野辺山に太陽光メガソーラー発電所を設け、電力会社へ送電しています。（2021 年実績 2,635,298/kg）また、東大阪市と高崎市にある商品センターにもソーラー発電設備を計画中で、将来的には自社で使用する電気を自社発電でまかないたいと考えています。
1 健康を こころえ 3 すべての人に 健康と福祉を 10 人や国の不平等 をなくそう	障がい者雇用を積極的に進めています。アイトスは障がい者の方も働きやすい職場環境づくりや、それぞれの方に適した業務割り当てと、運用の最適化を図っています。また、障がい者雇用施設に業務発注するなど、障害のある方の自立支援をしています。（一般社団法人）中標津障がい者自立支援センター ウィルビー（北海道）様との取り組み：外で作業ができない障がい者の方々に毎日安定して業務発注してほしいと要望があり、弊社の入力作業などを委託し、大変感謝されています。
1 健康を こころえ 4 質の高い教育を みんなに 10 人や国の不平等 をなくそう	海外自社工場・協力工場からの技能実習生受け入れと関係強化で雇用促進 発展途上国のミャンマー、ラオスには自社工場があり、カンボジアには大規模な協力工場があります。ミャンマー工場からは、技能実習生を招き、日本をよく知ってもらうとともに、弊社の生産システムへの理解を深め、さらなる関係強化を図っています。特筆すべきは、技能実習を終え帰国して現地工場で働いていた人材が、ふたたび日本に来て今度は技能実習生を指導するなど、実習生制度も第2ラウンドに入り、ますます関係が強化されていることは、喜ばしいことです。また、SDGs 的に見れば、貧困撲滅、質の高い教育、不平等の是正などにつながっていると感じています。 展示会などを中心に業界に SDGs の普及活動を行い、最近ではお客様から SDGs に関してのお問合せが増えてきました。今後も活用していただけるように普及活動を行って参ります。 アイトスと関わりのある海外工場との絆で、お互い協力しながら、より良い商品の生産に努めています。
部署単位でできること	
生産課	12 つくる責任 つかう責任 ・需要予測や発注精度を上げることで資材デッドストックを減らすようにしています。 ・デッドストック化している旧在庫資材の有効活用を図っています。 海外工場の物流効率化（運送時の二酸化炭素排出量削減をめざし、資材や製品などの一回あたりの運送量を増やし、運送回数削減などの運用を工夫）をしています。
企画課	3 すべての人に 健康と福祉を 8 働きがいも 経済成長も 12 つくる責任 つかう責任 年間、膨大な量となるカタログの総重量を減らすため、カタログの用紙を薄くしています。カタログは印刷後の運び入れ（梱包状態）、お客様への発送、手持ち持参、さらにはお客様からエンドユーザーへと、数次の移動があるため、軽量化は持ち運び時の負荷軽減、運送時の二酸化炭素削減につながっています。 また、現状の常識「使い終わった衣類はゴミ」を、これからの常識「衣類・繊維はリユース、リサイクルするもの」にするため、現在の技術でできる商品開発に取り組んでいます。 機会を捉えてお客様にユニフォーム知識を啓蒙しています。 川口工業高校掃除部【埼玉県、同好会から部に昇格後、スポGOMI 甲子園 2020（ゴミ拾い技術全国大会）で全国優勝したほど、何事にも研究熱心】ユニフォームと縁が深い工業高校生達に、弊社展示会に来ていただき、知識を深めていただきました。
縫製工場	1 健康を こころえ 12 つくる責任 つかう責任 15 陸の豊かさも 守ろう 裁断時に発生する端切れは、平均すると原反の15%にもなり、そのまま捨てる则かなりのゴミが発生します。 ゴミ減量をめざし、繊維クズをマットの中綿などに再利用しています。 またラオス工場から出た裁断くずからアップサイクルした素材を使用して、展示会等のイベント時に着用する T シャツを作成しました。
営業部	15 陸の豊かさも 守ろう お客様からいただく Fax 注文書を、パソコン画面で確認・処理することで、紙削減に努めています。
物流部	7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに 13 気候変動に 適応する 東大阪商品センターの取り組み ユニフォームビジネスは多品種大量備蓄が要求され、広大なスペースが必要です。同事業所では、所外にも外部倉庫スペースを借りていますが、出荷は事業所で行うため、頻繁に外部倉庫とのトラック移送があり、地球温暖化ガス（二酸化炭素）排出増につながっていました。そこで、出荷傾向を精査し、出荷回数が多い商品をあらかじめ商品センター内にストックする、ストックヤードの工夫などでトラック移送を減らしています。 ゴミ減量のため、各事業所間の連絡便で使う封筒や段ボールなどをできるだけ再利用しています。 紙ゴミなど、捨てるものを削減し、また文房具などの再利用やエアコンの温度設定、1～2 フロアの移動は階段を使用するなど、個人でできる事を行っています。
個人としてできること	
	3 すべての人に 健康と福祉を 12 つくる責任 つかう責任 13 気候変動に 適応する

アイトスの 温室効果ガス排出結果

アイトスは2021年度から、自社ならびにサプライチェーンの温室効果ガス排出量を計測しています。ユニフォーム製造事業が排出する温室効果ガスは、重工業や火力発電など排出量の多い産業に比べれば僅かで、全産業平均も下回っていますが、それでも環境影響を与えていることは間違いないので、外部検証機関による正確な数値把握と、サプライチェーン全体の削減をめざしています。



温室効果ガス排出量 675.3 トン（2022 年度）

アイトスが購入した素材や副資材、梱包材などの生産段階、裁断や縫製段階、物流段階、営業活動などで発生するCO₂ 総計は 675.3 トンとなり、前年に比べ4% 減となりました。

なお、アイトスが国内拠点で製造や販売活動で使う年間電力量は、一般的な4人家族の年間使用量の300軒弱です（電力使用量 平均5,500kWh／軒、年間）

自家発電量 2,635,298 kW / Scope2 全電力 1,572,668 kW

アイトスが運営する太陽光発電所（徳島県美馬、長野県野辺）、風力発電所（北海道函館市）各メガソーラー発電量は 2,635,298kW で、これは国内各事業場で使う全電力量（1,572,668kW）の約1.7倍に相当します。

Scope 1, 2, 3 について

Scope とは、温室効果ガスの排出量を測定する範囲を意味する概念で、アイトスは、経産省が推奨する GHG プロトコル基準で算出しています。

Scope 1

自社の燃料使用や製造プロセスなど直接的な排出燃料やエネルギー使用量に、省庁や自治体が定めたそれぞれの排出係数を掛けてCO₂ に換算しています。

Scope 2

自社が購入した電気や熱などのエネルギー使用に伴う間接的な排出事業所のロケーションごとに契約している電力会社が異なるため、電力会社毎の排出量を計算し、その和で算出しています。

Scope 2 電力使用量は、東西本社（2）、物流拠点（8）、工場（2）、営業所（6）が契約している電力会社の年間使用量にそれぞれの係数を掛けて積算しています。

Scope 3

原料調達や物流、販売など、自社のバリューチェーンで発生する他社の排出。



今できる最善の配慮 アイトスの環境配慮対応 と将来の物づくり

（仕事服に必要な要素）

- ・安全性と快適性：長時間着用を前提に、業務利便性と快適性にすぐれたものであることが必要です。動きをスムーズにするストレッチ素材や縫製技術、職場の寒暖を克服する防寒性や涼しさの追求、匂いや汚れが付きにくい加工、またそれらの耐久性が高いこと、更には、高いフィット感と着やすさ（サイズ揃えや、身体に合う適切なパターン設計）も重要です。
- ・イージーケア性：毎日着るものなので、簡単に洗濯でき、夜干しても朝には乾いている速乾性やノーアイロンでもしゃきっとしている形態安定性などが必要です。
- ・SDGs 的配慮（環境負荷軽減）



（ユニフォーム製造・輸送・保管時に配慮していること）

生地や付属物の選定：地球温暖化ガスの発生抑制、生地染色時に水を大量に消費せず、汚水排出が少ないなどの観点から選定。
裁断や縫製時：生地ロスを少なくして、生地廃棄を減らす。
輸送時：製造から製品備蓄までを通して、地球温暖化ガス発生抑制や梱包材ロス減少などを工夫。
事業所内：オフィスや物流倉庫のエネルギーとゴミ減量に注力
営業活動：トータルでエネルギー削減を図るため、公共運輸と営業車の併用、軽量化・省資源化（カタログ等の紙媒体）

（ユニフォームリサイクルへの配慮）

産業廃棄物扱いの使用済みユニフォームを、回収し、資材化、再製品化しています。
資材化：ポリエステル生地をいったん溶かし、不純物を取り除き、糸にして、生地に再生（BRING®）
再製品化：反毛して詰め物、マット、軍手などに再製品化、燃料化。（素材が多種の混紡である場合、再生が不可能なので、ボイラーや発電の熱源として利用）

（PET ボトル・リサイクル・ポリエステル）

ポリエステル繊維とペットボトルは同じ原料からできています。廃棄ペットボトルを洗浄、精製してできるポリエステルペレットから、再びポリエステル繊維を作ること、ゴミ削減と石油資源の有効活用ができます。（東洋紡 エコールクラブ®）

（非石油系ポリエステル）

ポリエステル繊維は、天然繊維に比べ、さまざまな加工が可能で、ユニフォームに欠かせない素材ですが、従来は石油から作られるものが大半で、製造も廃棄時も、地球温暖化ガスが発生していました。そこで、サトウキビなど植物由来原料から作ったポリエステル生地を使うことで、石油系に比べ地球温暖化ガスを抑制しています。（東レ エコディア®、帝人 プラントネット®）

アイトスが考える将来の仕事服づくり （究極の選択、服から服の再生・完全循環型ユニフォーム）

ポリエステル生地は、耐久性も高く、様々な加工が可能で、高機能が求められる仕事服に欠かせない素材です。しかし、現状、ポリエステルは基幹素材ではあるものの、実際には、見かけや手触り、機能性など多様な付加価値が求められるため、コットンなどの天然繊維、ポリウレタンなどの合成繊維を加え複合化されており、また服に必須のボタンやファスナーは、金属や樹脂が使われています。衣服全体が単一のポリエステル素材でないことは、高品質ポリエステルに再生させるための分別や高度な技術が必要で、ただでさえ高いリサイクルポリエステル製造コストがさらに高くなります。
完全循環型仕事服（産業廃棄物として規定する場合はユニフォーム）にするためには、附属材料から生地まで、仕事服のすべてを、ポリエステルで統一し、易リサイクル化することが望ましく、また、それを 持続可能なビジネスにするためには、ユーザーの皆様から販売店の皆様まで、社会的なコンセンサス作りと 技術課題のクリアが必要ですが、理想の実現に向かい、一步一步前進していきたいと決意しています。

（リサイクル率向上とカーボンフットプリント算出）

ポリエステル以外の 綿、羊毛、麻など天然繊維使いの仕事服リサイクルは、合繊に比べ技術突破がむずかしく、服から服への再生には限界があります。しかし環境汚染につながる焼却や埋め立てではなく、回収し反毛※して再利用することで、リサイクル率を上げるべきだと考えています。

（目標管理手法としてのカーボンフットプリント算出）

合繊、天然繊維それぞれのリサイクル率を高め、CO₂排出を抑制するためには、目標管理が必要です。そのため、ベースとなる商品 1 点ごとのカーボンフットプリントを算出する仕組みを、今後整えていきます。

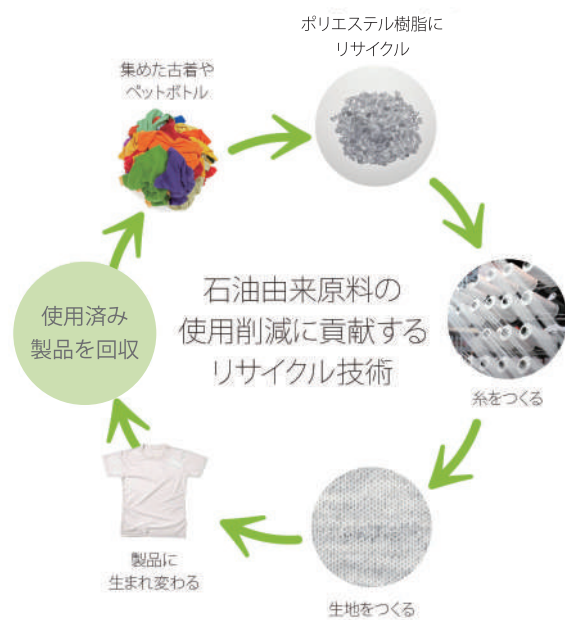
※ 1 反毛：使用済み衣料を分別したのち、裁断や引き裂きで、ワタ状態に戻すこと。ワタはマットや詰め物、フェルトなどに加工され、さらに糸状にしたものは軍手や雑材に使われている。

繊維 t o 繊維

廃棄されたユニフォームを回収し
再資源化することで
産業廃棄物と石油資源を削減する。



衣料品の約 60%にはポリエステル繊維が使用され、年間 45,000 トン以上が世界中で製造されており、多くの石油由来原料が使用されています。衣料品に含まれるポリエステル繊維を溶かし出し、精製してもう一度ポリエステル繊維の原料であるポリエステル（PET）樹脂を製造するケミカルリサイクルの技術で衣料品に使用される石油資源の使用量を削減することをめざします。



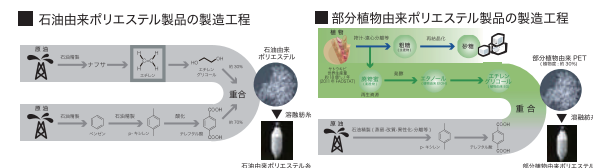
「BRING 及び BRING Material、Bring Technology は日本環境設計株式会社が企画・運営しております。」

植物由来原料

原材料を植物由来原料とすることで
製造過程の CO₂ 排出量を抑える。



「エコディア®PET」は通常の石油由来成分とサトウキビ等を原料とする植物由来成分を重合・熔融紡糸した植物度約 30%のポリエステル繊維で石油由来のポリエステル繊維と同等の性能を持ち合わせた素材です。



「PLANTPET®」はバイオマス（サトウキビ等）から作られる成分で、PET 樹脂の構成成分の一部を置き換えた環境配慮素材です。バイオ由来とすることで化石資源の消費を抑えることが可能です。



PET t o 繊維

再生ペットボトル素材を使用した商品を採用することで CO₂ 削減に貢献する。



「アンドプラス」は使用済みペットボトルを原料としたリサイクル繊維ブランドです。透明度の高いペットボトルを高い回収率でリサイクルし、独自のトレーサビリティや新しい識別システムを採用することで品質を向上しています。



リサイクル可能なペットボトルを原料として再利用し廃棄物の再資源化に取り組む。



「アフターペット®」は資源循環型社会づくりに貢献するリサイクル素材です。ペットボトルをきちんと捨てることで回収・リサイクルを可能とし、「ごみ」から「資源」に変えることで廃棄物の再資源化に取り組めます。



サステナブルセレクション

アイトスでは自社製品に対して独自にサステナブルランクを設定し、SDGsに対応する製品に分かりやすいアイコンを作りました。商品を素材-MATERIAL、安全性-SAFETY、快適性-COMFORTABLEの3つの区分に分け、その商品に該当する項目があれば指定のアイコンを表示します。カタログに掲載されている製品をお選びいただく際にご活用ください。

MATERIAL

資源・環境に配慮した

素材

MATERIAL



生地	再生ペット、植物由来ペット、天然繊維 100%、繊維由来ペット CO2 削減素材
付属	製品から外せない付属、製品から外せる、ラベル、袋などのエコまたは環境対応
工場環境	環境配慮型の工場（クラボウ徳島など）※具体的な効果資料必要
加工	環境に配慮した加工（CO 撥水、原着で排水低減、無糊生機など）※具体的な効果資料必要

SAFETY

人と現場の安全を守る

人と現場の安全

SAFETY



制電対応	JIST8118 JSAA の適合
強度対応	LOI 値 27 以上の防災または難燃生地、JSAA の耐油、耐滑
労働環境	ハーネス対応、冷凍庫対応、高視認クラス基準適合

COMFORTABLE

働きやすさの追求

快適性

COMFORTABLE



軽量	アイテムごとの軽量数値
動き	伸長率 10%以上のストレッチ生地 仕様面でのカッティング（例えばムービンカット）
衣服内気候	涼しい、温かい、透湿 仕様面での快適仕様（例えばベンチレーション）
その他	クッション性（シューズなど）、形態安定 ※通常品に比べ特殊素材をつかっているもの

2024年スタート

アイトスの環境プロジェクト



アイとスマイルプロジェクト

社会のために
子どもたちのために
未来のために
アイトスは「環境」をテーマにした
愛とスマイルプロジェクト
“AOZORA”
を始めます

- 服のリサイクルに加え、梱包資材や長靴などリサイクルアイテムを拡げていきます。
- 将来を担う子どもたちへのさまざまな支援活動に協力していきます。
- 「愛」と「スマイル」をテーマに、社員全員が、アイトスでできることを考えていきます。

SDGs 活用一覧

	ワーキング	防寒ウェア	スタッフ フルツシ	レインウェア	シャツ ボトムス	ニット アイテム	サービス 食品	オフィスウェア	警備	ケア メディカル	季節商品	シューズ	防護小物			マーキング の活用	キーワード	
1 貧困をなくそう	○	▲	○	▲	○	○	●	▲	▲	▲	▲	▲	▲		後発開発途上国（ミャンマー、ラオス、カンボジアなど）で縫製し、結果的に雇用創出、経済支援。	○	雇用提供	
2 飢餓をゼロに	●	●	●	●	●	●	●	●	▲	●	●	●	●		食物育成や食品製造に必要な、機能的ユニフォームを提供。		ユニフォームを通じて農林漁業、 食品製造支援	
3 すべての人に 健康と福祉を	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		高視認、抗菌防臭、熱中症対策、動きやすさなど、職種と作業内容で異なるニーズに応じた仕様を提供。	○	高機能で安全、快適実現	
4 質の高い教育を みんなに	○	●	○	●	○	○	○	○	●	○	●	●	●		実業系学校の実習服はノウハウのかたまり、身近な実習服を教材に、働き方を学ぶ冠授業を実践。	○	ユニフォームは気づきの宝庫	
5 ジェンダー平等を 実現しよう	○	○	○	○	○	○	○	●	●	○	○	○	○		男女共通アイテム、同じデザインだが体型が異なる男女別パターンを使用し、フィット感向上。	○	一見同じ、実は体型差に配慮	
6 安全な水とトイレ を世界中に	○	●	○	○	●	○	○	●	●	●	●	●	●		製造各工程で使われる水に着目し、無水染色や廃液クリーン化など、環境負荷を低減しています。	○	製造プロセスで使われる 水の削減と環境負荷低減	
7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		国内で大規模太陽光発電事業を行っています。商品を通じて省エネに貢献（再生ポリエステル使用、空調服、ホットベストなど）使用済み廃棄商品のリサイクルシステム（BRING システムに参加）。	●	太陽光発電事業、商品製造と 廃棄時のエネルギー削減	
8 働きがいも 経済成長も	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		ユニフォームは作業に適した機能と快適性があるのももちろん、働く気分を高め、同僚との連帯感や愛社精神を育み、プライドを育てる、服以上の存在であることを常に意識して作っています。	●	衣服性能＋モチベーション ＝ユニフォーム	
9 産業と技術革新の 基盤をつくらう	○	○	○	○	●	○	●	●	●	●	○	●	●		衣服は人にとって必需品であり、その時代に登場した技術で革新されてきました。今日でいえば、快適性と環境制御を目的に、パワーアシストスーツや衣服内気候を制御する服などの実用化をめざしています。	○	ワークアシスト、 ヒューマンアシスト技術	
10 人や国の不平等 をなくそう	○	●	○	●	○	○	○	▲	●	●	○	●	○		正社員、非正社員など社員身分を問わずユニフォームを支給しています。（ただし男女の体型差を考慮したサイズ体系）商品でも男女体型差を考慮したサイズ構成で、男女同デザインアイテムを拡充しています。	○	ジェンダーレス but ボディフィット	
11 住み続けられる まちづくりを	○	○	○	○	○	○	○	●	●	●	○	○	○		町の維持に必要なセキュリティー、公共交通、インフラ整備、メンテナンスなど、各職種に適したユニフォーム供給しています。	○	職種別最適ユニフォームの 企画と供給	
12 つくる責任 つかう責任	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		SDGs 各目標を念頭に、モノづくりと販売、使用後の廃棄とそのリサイクルに配慮した循環型リサイクルを形成しています。ただし現在の技術ではリサイクルできない特殊用途特殊素材ユニフォームもあります。	○	循環型リサイクルシステム	
13 貧困をなくそう	○	○	○	○	●	○	○	▲	●	●	○	▲	▲		最新の技術で、熱中症対策や防寒に有効なユニフォームを作り、また、商品の製造から廃棄に至る過程で、地球温暖化ガスを減らすさまざまな工夫をしています。	○	デバイスウェアで気候変動に対処 （空調服、吸汗発熱等）	
14 海の豊かさを 守ろう	○	○	○	○	●	○	○	●	●	●	○	○	▲		PET ボトル再生ポリエステル商品は結果的に海洋プラスチック低減に貢献。高機能で快適な漁業向けユニフォームの提供。	○	海洋プラスチック低減 PET ボトル再生ポリエステル使用 ／廃棄ユニフォームリサイクル	
15 陸の豊かさも 守ろう	○	○	○	○	●	○	○	▲	●	●	○	○	▲		綿花栽培で使われる肥料や農薬、水の量は膨大なので、可能な限り合繊に置き換え。廃棄ユニフォームのリサイクルでゴミ削減、焼却時の地球温暖化ガス削減。持続可能な土地活用に貢献する農林業や土木建設業向けに高機能で快適なユニフォームを提供。	○	廃棄ユニフォームの リサイクルシステム	
16 平和と公正を すべての人に	○	●	○	●	●	○	○	●	●	●	○	▲	▲		安全性に配慮したユニフォームで労働災害軽減。	○	安全重視設計	
17 パートナースhipで 目標を達成しよう	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	▲	●		一般ファッション衣料が見かけの新鮮さを提案しているのに対し、ユニフォームは、お客様（着用者）からいただく職種ニーズをもとに機能と安全性、快適性を最重要課題に作っています。	○	仕入れから販売まで SDGs の思いを共有	
AITOZ/BRING の活用	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	●			○		